

# 中国的市民社会のリアリティ から学べること

駒澤大学/日中市民社会ネットワーク

李 妍焱

LI YANYAN

# 「市民社会創造ラボ」への思い

- 日本における「市民社会」のビジョンづくりを提起し、提唱する存在へ
- 2013年9月、「市民セクター次の10年を考える会」で、「中国を通して日本の市民社会を考える」と題する講演で提起した3つのこと
  - ビジョンを真剣に討論する場：「業界のメディア」の構築
  - 社会浸透の場：「親市民社会派」の有名人をストックする、企業スポンサーを見つけて、大型キャンペーンを定期的に行うなど
  - 制度変革の場：業界有志共同で、シンクタンクを設立する
- その提言への反省
  - エリート主義と効率主義の傾向
  - 「組織化」という思考回路に囚われていた

## 日本のボランティア・セクターの「自強」のために

- 市民社会の「参加の仕組み」に、NPOはどういう意味で貢献しているのか、それぞれの活動が参加の文化、参加の権利の促進にどのように繋がるのか、詳細に検討する。
  - 個々の団体における実践者は、自分たちの活動だけに目を奪われがちであり、「領域」「業界」としてNPOを捉え、将来の展望やビジョンについて思いをはせることが少ない。
  - 中国の場合は、研究者、知識人が実践者と密接に関わっており（研究者が自ら実践する場合も多い）、生存環境が極めて厳しいことから、いかなるビジョンを描けるのかに関する検討が多くの場合において行われている。そこに、海外のNGOや財団も関わっているため、より広い視野からビジョンや戦略を描くことが可能となる。

→ 討論の場：「業界のメディア」の構築？

## 日本のボランティア・セクターの「自強」のために

- 「大衆に働きかけなければ」という強い意志。気心が知れた仲間だけで活動をほぼ完結させるわけにはいかない。
  - 中国のNGOは、有名人効果、ネット効果を大いに活用
- 社会浸透の場：「親市民社会派」の有名人をストックする、企業スポンサーを見つけて、大型キャンペーンを定期的に行うなど
- 真剣に政府や市場の「リッチ」の資源を取り込もうとする姿勢。他領域との協働を提唱するだけではこれは実現しない。
  - 中国のNGOは、党の方針や政府の政策を研究し、「入り込む余地」を探し、入らせてもらえるつてや人脈を作ろうとする。その中で政府側と「博奕（ゲーム/取引/やりとり）」を行っていくことによって、資源を得るだけではなく、政府側に影響を及ぼそうとしている。日本でも行政委託や指定管理者制度に関する議論はあるが、「NPO側がリードするための戦略」への探求は不十分だと言わなければならない。

→ 制度変革の場：業界有志共同で、シンクタンクを設立する

# あれから6年、今日は進化（深化？）した思考へ

- 当時の時代背景と研究の志向性

- 民主主義制度を市民社会の存在前提とし、「中国には市民社会なんてあるの？」という疑念。他方では、世界2位の経済大国に躍進した中国が、「欧米型」とは異なる社会発展の道を示しているのではないかという期待。  
[https://www.ted.com/talks/eric\\_x\\_li\\_a\\_tale\\_of\\_two\\_political\\_systems?language=ja#t-8822](https://www.ted.com/talks/eric_x_li_a_tale_of_two_political_systems?language=ja#t-8822)
- それぞれの社会的文脈に根差した、特徴的で多様な市民社会のありかた、展開の可能性を示したいという志向性。
- 相補的な特徴を持つ市民社会同士をつなげ、交流させることで、双方の社会変革を促進する志向性。

- その後の時代の変化と研究の志向性の迷い

- 世界の対立軸は「民主主義体制⇔独裁体制」ではなく、「社会インフラと資源を主導するエリート⇔社会インフラと資源から排除される一般人」へ。欧米型社会でも中国でも、「市民社会」はエリートたちによる支配のテクノロジーに組み込まれるようになり、社会問題の解決への有効性、効率性を軸に「投資」「評価」される存在へ。
- 中国で「市民社会」が公共の言説から排除されるようになった。「公益」というイデオロギーに覆い尽くされていく。
- 日本でも市民社会が流行らなくなり、猫も杓子も「ソーシャル・イノベーション」。
- そもそも、「市民社会」というカテゴリーによって私が求めたいことはなんだ？「社会的文脈」をどう理解しているんだ？

# 基本スタンスと視点：「市民社会」への私の眼差し

- 院生時代：「市民」という生き方を当たり前のように楽しむ人々との出会い
  - 自分の仕事（職業）ではないのに嬉々として勤しむ
  - 価値を共有する「仲間」という感覚、その価値を表現する方法への自覚、そして価値をめぐる衝突を受け止める姿勢
  - 生き方や働き方、人とのつながり方における「自由」な感性

⇒「市民」というのは、人が幸せになる生き方なんだという理解。「市民として生きる幸せ」の普及と浸透を期待したい。
- その後の中国における市民社会の考察：「社会体制が異なっても、市民的生き方が可能」ということの発見
  - 統治の技術は社会によって異なるが、公共の領域にオープンな部分がある限り、「市民」が現れる
  - 理性も正義も、「よりよい社会」の作り方も一様ではないのと同じように、「市民的生き方」も一様ではない。

⇒ただし、どんな社会でも、統治の技術の暴走を止める装置がそれぞれの社会に埋め込まれ、作動することが必要。「市民セクター」にその役割を期待したい。
- 今までの私の研究と実践の基本的な態度
  - ⇒「市民的生き方」の喜びを広げ、統治の技術の暴走を制御するような、「下」から社会を構築する力と仕組みに関する研究と実践
  - それが、NPOなどの市民組織やネットワークの活性化と影響力の拡大によって可能だと思っていた。しかし・・・

# 市民社会の定義と捉え方：ツールの強化は逆効果？

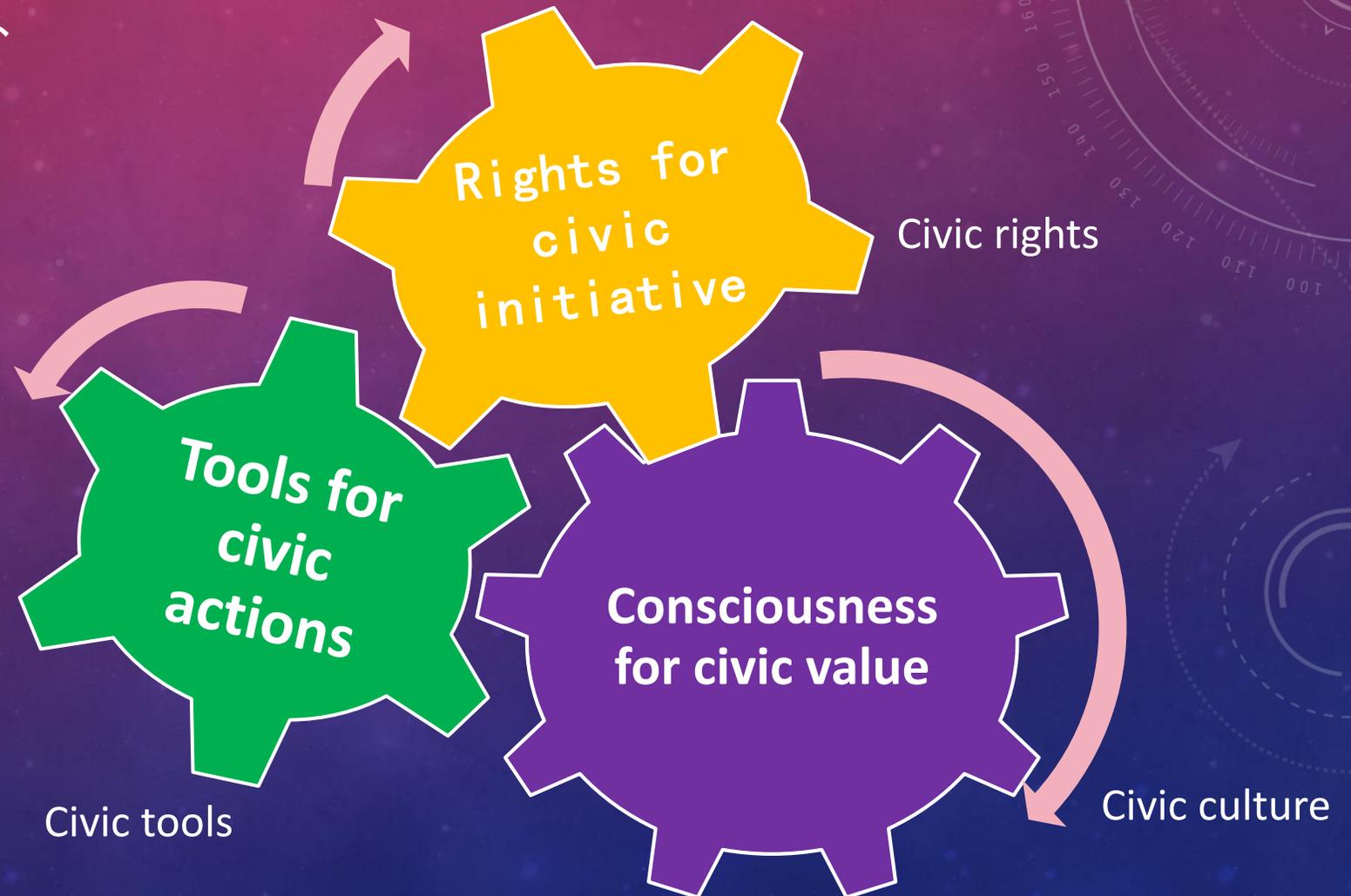
ツールの部分をエンパワーメントして、力強く動かせることができれば、ほかの二つのギアも回るようになると思った。

だが、実際は、逆にツール自体の存続が目的となり、「市民離れ」が生じたように見える。

「市民的専門性」も中途半端なまま。

専門的、職業的業界の強化も大事かもしれないが、他の二つのギアの活力とエンパワーメントに注目すべきと気づく。

特に今後注目したいのは、Civic Cultureのギア



# 私が理解するソーシャル・イノベーション ～市民社会の代替ではない～

政府

機会としての政治構造的資源

市場

手段としての経済的資源

市民セクター（結社・ネットワーク・プロジェクト・多様な連合体と連携の仕組み）

セクターをまたがる  
この部分の様々な  
取り組みがSIの実践

いわゆるコレクティブ・  
インパクトもこの部分で  
生じる。SIとは、この部  
分の拡大と影響力によ  
り、セクターなどの社会  
的カテゴリーそのもの  
の変化、各セクター内  
部の価値と思考回路、  
行動様式の変化が生じ  
ることを意味する。

個人・家族・コミュニティ

土壌としての社会関係資源(SC)

# 「中国的市民社会」への考察を通して今回強調したいこと

- 今まで考えようとしたのは「それぞれの社会的文脈に根差した多様な市民社会の展開の可能性」だった。だが
  - 「社会的文脈」の違いは「多様性」を担保しない。  
⇒「社会的文脈」を深く掘り下げ、市民意識と文化の在り方に注目する必要があると気づく。
  - 権威主義体制でも民主主義体制でも同様に市民社会の無力化が生じている。  
⇒問題は「一般市民」の生き方や暮らしからの遊離。
- 今回は、「市民的生き方」を自らの生き方とする人々の目線に立ち戻ることをテーマとした。
  - 彼らは、自分の市民的生き方をどのように実社会の文脈の中に位置づけようとしているのか、
  - 彼らは、どのように葛藤しながら折り合いをつけて、自らの生き方が広がる輪の広がりや蓄積としての「市民社会のリアリティ」を作り出しているのか⇒「市民的生き方」の表現としての市民社会に回帰することにより、一般市民の生き方と暮らし方と別物ではない市民社会、一般市民の生活の営みと、社会への参加や社会変革へのコミットメントが別物ではない状況をどう実現できるのか、そのヒントを得ようとした。

# 中国の「公益人」たちの 生き方

2017年3月



## 中国新世代物語： 「市民的」生き方を 楽しむ若者たち

CS ネットブックレット

李 妍焱 編



協力：駒澤大学特別研究助成 日中市民社会ネットワーク(CS ネット)翻訳チーム

## 目次

第1部 故郷を守る.....	2
王吉勇：故郷のために .....	3
巴雅尔图(バヤエト)：故郷の放牧民と現代社会を結びつけるもの.....	12
魏翰楊：故郷の風景を諦めたくない.....	18
羅藏彭措：チベット文化保護と非営利組織の間で.....	23
第2部 汚染と戦う.....	29
陳悦：故郷の宝物を守るために.....	30
曹凱：90年代生まれの達成感 .....	37
第3部 教育を変える.....	42
王愉：環境保護は自然回帰から.....	43
西米：ルピナスさんの童話の世界さながらのNGOをつくる.....	49
第4部 「自分スタイル」を生きる.....	53
海上の奇縁で結ばれたカップル：300万元の家を捨てて山で神仙暮らし.....	54
石嫣：留学ではなく、新しい有機農業モデルを学ぶために渡米.....	63
まつげちゃん：花いっぱいのユースホテル、カフェ、民宿を7軒開業.....	69
劉衍衍：山奥に博物館を建設、村の守り神に.....	76
第5部 変化をしかける.....	91
陳嘉俊：自転車でやさしい都市をつくる .....	92
鄧飛：憤慨するより行動を .....	97
謝 辞.....	104

# 公益人が生き方を表現する領域としての「公益圏」

- 「公益圏」が展開される経緯については、『下から構築される中国』p.59 – 65「民間公益圏の展開過程」をご参照ください。
  1. 知識人による啓蒙と導き、社会的実践と組織化の段階から
  2. 組織の多分野化、専門化、多様化の段階。合法性と資源をめぐる戦略と駆け引き。
  3. ネットメディアの圧倒的影響力により、活動形態の多様化、プロジェクト化。組織重視より成果重視。
  4. 2010年以降はとくに有力財団や大企業のキーパーソンたちによる公益領域のデザインとけん引。公益インフラの整備。全民公益の提唱へ。
- 公益人が葛藤してきた（いる）主な論点への注目
  - 制度的保証と自由に裁量できる領域の確保とのはざままで
  - 手軽なネット募金と圧倒的資金による公益投資をめぐる競争に駆り立てられ
  - 自分たちは、いったいどのような社会的存在でいたいのかに関する論争（行政化・道徳化・市場化）
  - 投資され、育成され、時には阻害されながらも自分らしい公益的生き方を模索しようと柔軟に対応していく
    - ソーシャル・イノベーションのエコシステムに導かれながらも、必ずしも「公益市場主義」に囚われない。
    - 参考：3つの公益思想「公益原理主義」「公益市場主義」「公益改良主義」（p.257-258）

# 中国的市民社会の特徴

- 中国的市民社会のリアリティを、公益人の目線から見ると、見えてくるその特徴
  - 「自明の権利」より「権威の獲得」が大事。
  - 公益圏でも能力主義と結果重視。
  - 不確かや流動性は当たり前。常に変化し続ける。
- 学びのポイント1：「組織化」に頼らない展開。
  - ⇒NPOという組織以外のツールを用いて、自分の市民的生き方を、社会の変革へとつなげている。中国ではとりわけネットメディア、財団や大企業、国のリードによるエコシステムの活用が目立つ。
- 学びのポイント2：不確かや流動性を活力の源に
  - ⇒確固たる手続きや、ルール、制度の枠組みを作って、自らの身分やなんらかの権利を「保障してもらおう」のではなく、論争や交渉を厭わず、説得力や支持を得るための戦略と努力を惜しまない。
- 学びのポイント3：エリート支配に対する無力さ
  - ⇒制度的制限に加えて、権威の獲得や成果主義への追求が、エリート主義を強化し、草の根の色を消す。

# 「市民」の生き方を「社会」の変革への力へとつなげていくもの（中間・媒体）とは？



組織化？



メディア？



デザイン？



編集と再編集



NPOによって組織化される市民社会、  
エリートによってデザインされるソーシャ  
ル・イノベーションから、**市民的生き方  
の編集と再編集の集積によって紡ぎ  
だされる市民社会へ**